

Singakademie Tokyo

ジングアカデミー東京 第11回演奏会

F. リスト Franz Liszt

ミサ・コラーリス

Missa choralis

詩篇 137 「バビロンの流れのほとりにて」

Der 137. Psalm "An den Wassern zu Babylon"

詩篇 23 「神はわが牧者」

Der 23. Psalm "Mein Gott, der ist mein Hirt!"

J. ブラームス Johannes Brahms

祝辞と格言 Op.109

Fest- und Gedenksprüche op.109

F. メンデルスゾーン Ferix Mendelssohn

詩篇 115 「私たちではなく、主よ」 Op. 31

Der 115. Psalm "Nicht unsrem Namen, Herr" op.31

2つの宗教的男声合唱曲 Op.115

Zwei geistliche Männerchöre op.115

指揮
大島 博

器 楽

オルガン 今井 奈緒子 / ヴァイオリン 小林 瑞葉 / ハープ 水野 なほみ

独 唱

ソプラノ 星川 美保子 / アルト 志田 理早 / テノール 川西 祐毅 / バス 中川 郁太郎 … ほか

合 唱

ジングアカデミー東京

2019. **1.20** Sun.

14:00開場 14:30開演

上野学園 石橋メモリアルホール

前売券 ¥3,000 / 当日券 ¥3,500 / 学生券 ¥2,000(高校生以下 ¥1,000)

お問い合わせ

TEL/FAX 03(3351)0705 金子

singakademietokyo@gmail.com

ロマン派の宗教作品

バロック時代の最後を飾ったバッハ、ヘンデル以降、宗教音楽は低迷期を迎えます。理由はいろいろ考えられますが、その一つとして、人間の理性の力によって真実に到達しようとする啓蒙思想によって教会の権威が相対化されたことが挙げられるでしょう。古典派の時代にはヘンデルに影響を受けたハイドンのオラトリオ、モーツァルトの宗教作品、パレストリーナやグレゴリオ聖歌まで研究したベートーヴェンの《ミサ・ソレムニス》などを例外として、傑作と評価できる作品は僅かです。

しかしその後続くロマン派の時代には、過去の歴史、文化の再評価の中で個性的な宗教作品を生み出す作曲家が現れました。バッハの《マタイ受難曲》を復活上演したF.メンデルスゾーンは、イギリスでヘンデルの作品に触れ、ローマでカトリックの音楽を体験し、それらを統合する新たな道を模索しました。F.リストはピアノのヴィルトゥオーゾとしての活動を経て僧籍に入り、グレゴリオ聖歌に基づく《ミサ・コラーリス》など、宗教作品を数多く手がけています。そして一世代後のブラームスは、勃興期にあった音楽学の助けも借りながら過去の音楽を研究し、晩年に至るまで宗教作品を作り続けました。

今回は、ロマン派を代表する三人の作曲家の作品を取り上げ、その魅力を明らかにすると共にロマン派の時代に共通する音楽観、宗教観にも迫ってみたいと考えています。

大島 博

大島 博 (指揮)

熊本県生まれ。中央大学法学部卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学。渡辺 高之助、高 丈二、原田 茂生、中山 悌一の各氏に師事。86年、同大学院在学中にミュンヘン音大に留学、エルンスト・ヘフリガーに学ぶ。90-91年D.フィッシャー＝ディースカウに師事。95年東京藝術大学大学院博士課程を修了。宗教曲の分野で、初期バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、とりわけバッハの演奏者として定評がある。また、ドイツ・リート及び日本歌曲の演奏にも積極的に取り組んでおり、自主企画によるリサイタルに加えて各地での客演も数多い。96年からは「ドイツ・リートのためのしめし」と題した、ドイツ歌曲を知るためのレクチャーを継続中。近年は、さらに合唱指揮者、発声指導者としてもその活動の幅を広げている。立教大学大学院キリスト教学研究科特任教授。国立音楽大学非常勤講師。

水野 なほみ (ハープ)

東京藝術大学器楽科卒業。ヨセフ・モルナール、桑島すみれ各氏に師事。フランス・ガルジレスにてビエール・ジャメ氏の講習に参加して指導を受ける。東京ソリスト、東京シティ・フィルとコンチェルトを演奏する。ルーテル市谷センターにて、「フルート・チェロ・ハープによる室内楽の夕べ」を開いたのを初めとして、各地の美術館やサロンでのコンサートなど室内楽演奏会に多数出演している。現在は、オーケストラや室内楽の演奏者として活動している。

ジングアカデミー東京 (合唱)

大島 博の呼びかけにより、19世紀ドイツで隆盛を誇った合唱音楽の研究、演奏運動に範を求め、さらに遠く「アカデミア (快樂)」の原義に戻って、「歌う快樂 (Singakademie)」を追求しようと2009年発足。各人が自立した音楽家として作品に取り組み、自由な雰囲気の中で有機的なつながりを持つ集合体として、完成度の高い音楽を作り上げることを目指しています。これまでにH.シュッツ「マタイ受難曲」、F.リスト「十字架への道」、H.ディストラ「クリスマスの物語」、F.マルタン「2群の4声合唱のためのミサ曲」ハウエルズ「レイエム」、マクミラン「ミゼレーレ」などを演奏してきましたが、今後も比較的演奏される機会の少ない佳曲に取り組んでいく予定です。

交通アクセス

電車・地下鉄

JR各線「上野駅」入谷改札より入谷口から 徒歩8分
東京メトロ・日比谷線/銀座線「上野駅」1番出口より徒歩8分

バス

台東区循環バス<東西めぐりん (浅草方面)>
「上野駅・上野公園 (東京文化会館前)」より乗車、
「上野学園」にて降車、徒歩0分、行きのみ。
(めぐりん:所要時間10分、15分間隔で運行)

住所: 上野学園 石橋メモリアルホール
〒110-8642 東京都台東区東上野4-24-12 学校法人上野学園内

※駐車場はございません。お越しの際は、公共の交通機関をご利用ください。

今井 奈緒子 (オルガン)

東京藝術大学、ドイツ・フライブルグ音楽大学オルガン科を経て1985年ドイツ・ゲオルグ・ベーム国際オルガンコンクール、88年ベルギー・ブルージュ国際バッハ・コンクールに入賞。日本各地におけるソロ活動のほか、経験豊かな通奏低音・アンサンブル奏者として共演者から信頼を得ている。ソロCDに「シャイトのアラマンダ」「バッハ:クラヴィア練習曲集第3部」「スウェーデン7つのオルガン」「バッハのコーラルを歌う」(付属CD)等。バッハ・コレギウム・ジャパンの教会カンタータシリーズほか国内外での公演、CD録音に数多く参加した。現在東北学院大学教養学部教授、大学オルガニスト、同宗教音楽研究所々長。日本キリスト教団霊南坂教会、西片町教会オルガニスト。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

小林 瑞葉 (ヴァイオリン)

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部演奏学科、東京芸術大学音楽学部古楽科を経て、同大学院修士課程を修了。2006年、古楽情報誌「アントレ」に記事「バッハ無伴奏の対位法表現と運指」を連載。2008年、音楽学者磯山雅氏の企画による演奏会「バッハの宇宙〜シャコンヌの祭典 Part 2」においてJ.S.バッハの無伴奏パルティータ第2番を演奏し、好評を得た。また近年はヴィオラ・ダ・ガンバのコンサート(台奏)の奏者としても活動している。ヴァイオリンを藤本久実、江藤俊哉、江藤アンジェラの各氏に、バロック・ヴァイオリンを若松夏美氏に、ヴィオラ・ダ・ガンバを福沢宏、神戸倫樹美の各氏に師事。

立教大学教会音楽研究所主催
レクチャー・コンサート
1月13日(日) 18:00開演 入場無料
立教学院諸聖徒礼拝堂 (立教大学池袋キャンパス内)
F. リスト
「ミサ・コラーリス」
J. ブラームス
「祝辞と格言」 Op.109 …ほか(予定)

